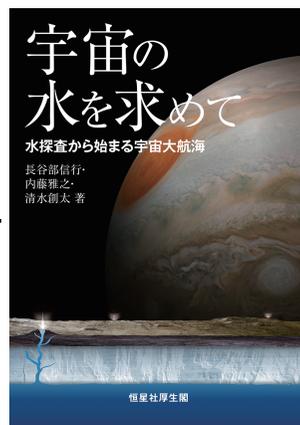


宇宙の水を求めて

長谷部 信行, 内藤雅之, 清水創太(著)
恒星社厚生閣 2024年9月刊行 全192頁
ISBN: 9784769917144

小玉 貴則¹



水、それは惑星の形成過程から我々生物の生活順に至るまで、様々な形で多くの役割を果たしている。その“水”が宇宙においてどのようなものであるかを理解することは、天文学・地球惑星科学において重要な課題であるだろう。また、将来的に計画されている惑星探査において、水は資源として必要不可欠な物質である。我々の“知”の水平線を広げる活動の至る所で、“水”を様々な角度から掴む必要がある。今回紹介する『宇宙の水を求めて、水探査から始まる宇宙大航海』は、“水”という物質を多角的なアプローチを持って見つめ直し、水の役割から太陽系内、太陽系外に存在する水について解説した書籍である。本書は、以下の6章から構成されている。

1. 水の性質
2. 水は生命の源
3. 地球や月の起源
4. 月の水探査
5. これからの月の水探査計画
6. これからの生命探査

各章ごとに複数(30個前後)の疑問が設定されており、それに対し丁寧な解説がなされている。それぞれのトピックに関して、その背景知識にまで解説がされており、1ページ以内で簡潔になされており読みやすい。1章ごとに科学課題が整理されているため、全体として最初から読む以外にも、より知りたい項目を目次から選択して読んでも、理解するに十分な情

報が得られるだろう。物理学、化学、生物学、地球惑星科学、そして天文学にまで及ぶ最新の理解を整理して得られることは、通常、とても難しいことではある。本書によるトピックの整理・展開は読者の理解に対し多くの助けになるだろう。本書のレベルは高校生程度の知識があれば理解できるものであるため、惑星科学の初心者や他分野の読者にとっても、良い導入になる書籍になるだろう。特に、現在そして将来的に大きな発展を展開するであろう、惑星探査と水に関しては、『今、この時に動いている科学』を内容から感じることができ、水の重要性の理解に加えて、臨場感を味わえる。それだけでなく、将来の月探査・火星探査に関して、まさに1つの船に乗って旅をしているようなワクワク感を与えてくれる。また、章の中にコラムが設定されており、知的好奇心をくすぐり、満足感と科学の広がりを与えてくれる。これらが探究するということに対し、重要な原動力となるのであろう。

今後、我々の“知”の水平線はさらに広がり、その中で“水”の理解も急速に進んでいくであろう。そのような荒波の中、この書籍が挑戦の航海に挑む若手研究者を含む未来の研究者のコンパスになることを期待したい。

1. 東京科学大学 地球生命研究所
koda@elsi.jp

著者紹介

小玉 貴則

現職：東京科学大学 地球生命研究所 特任准教授，
最終学歴：東京大学大学院理学系研究科地球惑星
科学専攻，学位：博士(理学)，専門分野：惑星科学，
系外惑星科学。